

# 見発見 地域力

宮下今日子  
第6回 東京都三鷹市

## 端末使い高齢者の見守り支援 元気シニアが利用をサポート

「VIT」と呼ばれる端末を使って独居の後期高齢者に向けて見守り支援を行った。99歳の人も取り組んだという結果も得られ、今後の活用が注目される。

NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹では、2000年から元気高齢者を対象にパソコン教室を開いてきたが、同時に講師育成も行い、180人のシニアアドバイザーが毎年3600人の市民にICTの活用を有償で教える事業を行っている。元気シニアの生き甲斐づくりにパソコンの貢献度は大きなものがありそうだ。

「VovIT」（システム開発・運用／情報環境デザイン研究所）は、キーボードもマウスもないパソコンで、画面にタッチしながら操作ができ、手書きでメールが打てる。またTV電話としても使えるほか、ニュースや天気予報、市報、地図なども見られ、さらには買い物もできるという優れもの。このほか、懐かしいアルバム写真を眺めたり、自分史を書く、読むなど余暇を楽しくすることもできる。

中でも「今日の予定」はユニークで、朝の挨拶から始まり、お祭りや避難訓練など地域の行事情報、利用者の服薬カレンダーなど、1日の予定を書き込んでおく。

書き込むのはサポーターで、利用者には「VovITおじさん」と呼ばれるキャラクターが今日の予定をしゃべってくれる。利用者は確認のボタンを押す事で、確認メールがサポーターに届き、利用者の安否も含めて確認が取れるというもの。また、緊急通報システムも装備されていて、緊急ボタンを押すと大音量のアラームが鳴り、メールがサポーターに届く仕組みになってい

この「VovIT」を用いた事業は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業（2012年度）の「ICT活用の孤立防止ネットワーク構築事業」として行われ、在宅医療クリニック（武蔵野ホームケアクリニック）、訪問介護事業所（グレースケア機構）、地域包括（医療法人充会）、シニアサポーター団体（きらっとシニアクラブ、NALCほか）、三鷹市を含む6市区が連繋する包括的な取り組みとなった。

おのおのが利用者を抽出し、選ばれた47人が複数月にわたって利用。利用者は70歳以上で、80代が半数、90代も数人いた。

99歳の女性は要支援2で、担当した地域包括支援センターの加藤センター長は「初めは興味がない様子でしたが、サポーターの支援でメールやTV電話を使えるようになりました」と話す。

今回の事業には約40人のサポーターが有償でかかわった。年代は50歳以上で、半数が70代、80代も1割いた。元気シニアが介護や見守りが必要とする高齢者を支えるという、まさにこれからの支援モデルと言えそうだ。

事業に参画したグレースケア機構の柳本氏は「孤立防止・見守りということから、もちろんこのような支援は行っていくべきだと考えます。一方通行で介入するというよりは、本人の力を引き出して、双方向のコミュニケーションや見守りの充実につなげていくことが望まれます」と話している。